(別添4)

【高原町】

1人1台端末の利活用に係る計画

- 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿
端末更新を行う小学校4校、中学校2校(令和8年度には小学校1校、中学校1校に統廃合)については、それぞれの実態に応じて第1期GIGAスクール構想時に導入した1人1台端末を活用した授業への取組を行ってきた。
情報教育については、高原町では以下の4つの項目で情報化社会に対応する教育の推進を図る。
 - ①情報モラル教育の推進
各教科及び領域の授業を通して、情報通信機器の正しい使い方や利用方法等の情報モラル教育を推進する。
 - ②情報教育環境の整備
インターネット環境の整っていない家庭への支援を行い、持ち帰り学習ができる環境整備を目指す。
また、ICT機器の進化に対応するために、可能な限り定期的な機器更新等を行う。
 - ③教職員のICT活用指導力の向上を図る研修の充実
教職員のICT機器活用推進のためには、システムに関する操作や機能についての知識や技能の平準化を図る必要がある。
ICT支援員を活用して、情報機器操作の習熟やスキルアップに向け研修会等を実施する。
 - ④情報活用能力の育成
子どもたちの情報能力育成を推進するため、ICT機器の効率的な活用を図る。また、論理的思考力(プログラミング的思考)の向上を図り、子どもたちが情報活用能力を持ち、時代に取り残されない子どもたちを育成する。
- 2 GIGA第1期(～令和5年度まで)の総括
 - 経過
 - 令和元年度

一部タブレットの導入を行い、ICT機器を導入。

○令和2年度

補助金を活用しタブレットを導入。

1人1台端末として児童生徒全員に整備。

タブレット向けドリル導入（小学生用）

○令和4年度

4月から1校1Gbpsの光回線サービス利用開始。

11月からICT支援員を導入。

電子黒板導入。

○令和5年度

電子黒板導入。

●まとめと課題

本町においては、GIGA第1期はICT教育への基盤づくりが主な目的となった。ネットワーク環境の整備及び1人1台端末を児童生徒へ配布し、次世代を担う子どもたちが情報教育に親しむことで、「生きるすべ」としての基本的な情報技術を身に着け、変化の激しい社会に取り残されない教育を行うための基盤づくりを行った。

児童生徒はもちろんのこと、教職員についてもこれまでと違ったICT機器を活用した指導が必要になるなど根本的に変えていかなければならないところも多々あった。

GIGA第1期を進めていく中では、問題点も見られるようになった。

児童生徒では、それまでは教科書だけを主に活用していたが、タブレット端末を道具として活用する必要が出てきたことから、机の上にタブレットと紙の教科書を両方広げないといけなくなり、机を占有してしまう問題も出てきた。これについては、天板拡張を行って対処した。

教職員の中では、黒板だけでなく、電子黒板、タブレットと使用する道具が増え、かつ、有効に活用する必要がある等、それでは大きく違う指導方法に戸惑う姿も見られ、ITリテラシーをまだまだ向上させる必要も感じた。自治体で使用している授業支援システムが違う等、人事異動により使うシステムが変わる不便さを感じる場所もあったようだ。

3 1人1台端末の利活用方策

端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを前提として下記の3つの方策を行う。

① 1人1台端末の積極的活用

端末の活用回数及び活用時間を確保し、児童生徒が少しでも長く端末に触れ、端末を活用した授業を受けられるようにする必要がある。そのためにも、教職員自身が授業の在り方を変え、端末の積極的な活用やデジタル教材の活用により、デジタルに触れる時間を増やしていくことが必要。

② 個別最適・協働的な学びの充実

デジタルドリル等を活用して児童生徒一人ひとりの学習理解度や進度に合わせて「個別最適な学び」を実践し、授業の中ではタブレットを活用し児童生徒同士がお互いに学びあう「協働的な学び」を実践する。

また、端末の持ち帰りを積極的に行うことで、児童生徒一人ひとりが主体的に端末を活用する機会を作る。

③ 学びの保障

不登校児童生徒、障がいのある児童生徒、特別な支援が必要な児童生徒等、様々な実態に応じて、1人1台端末を活用した支援ができるようにしていくことが必要。誰一人取り残さず、全ての児童生徒へ学びを保障することを推進する。